

令和6（2024）年度 家庭教育オピニオンリーダー研修⑤ 実施報告

実施日：令和6（2024）年10月3日（水）

今回は、主会場である総合教育センターと3つのサテライト会場（芳賀庁舎、下都賀庁舎、塩谷庁舎）をオンラインでつないで研修を行いました。

○ 講話・事例発表「地域で子どもの成長を支えよう」

武庫川女子大学心理・社会福祉学部社会福祉学科 教授 倉石 哲也 氏
栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会 会長 桐生 澄江 氏
家庭教育オピニオンリーダーたんぽぽの会 林 美幸 氏

【事例発表】

栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の支部の活動について、桐生氏、林氏から事例発表をしていただきました。

始めに、家庭教育オピニオンリーダーたんぽぽの会の活動について、林氏から説明がありました。地域において、子ども、高齢者、障害者、ひきこもりの人など、あらゆる人・あらゆる世代がそれぞれを認め合いながら過ごせる空間づくりをしていること、オピニオンリーダーはそれぞれをつなぐ役割（接着剤・お節介）であることなどについて話されました。

次に、小山市家庭教育オピニオンリーダー連絡会「ポケットの会」の活動について、桐生氏から説明がありました。行政の協力を得ながら運営しており、年間を通して様々なイベント、おしゃべり会、学習会等を開催しているとのこと。障害のある方とその保護者も参加できる内容のものもあり、障害の有無にかかわらず参加でき、垣根のない交流の機会をつくっていることが分りました。

受講者は、家庭教育支援者の地域での具体的な活動や役割、連携について理解を深めることができました。



【講話】

前半の事例発表の内容を受けて、倉石氏から講話をしていただきました。始めに、地域子育て支援の目的と意義として、「子育て家庭」や「親になること」を地域で支えることの必要性や子育てを支える場作り・関係作り、「チーム子育て」として、子どもを見守る大人が複数いることの大切さなどについて話されました。次に、地域子育て支援拠点事業の意義について、子育てに関する調査データを基に説明がありました。最後に、子どもの育ちに必要なことや尊重してほしいことなどについても話されました。受講者は、家庭教育支援者に求められることや地域で家庭教育支援をする際のポイントについて、知ることができました。



事例発表や講話を通して、受講者は、今後取り組みたい家庭教育支援のイメージを持つことができたようです。

このグループ協議を、研修全体のまとめとして位置づけています。

始めに、本研修のこれまでの流れ（家庭教育の現状と課題を学ぶ・現在家庭教育や子育ての支援のために行われている取組の実際について知る・家庭教育や子育ての支援に生かすことができる知識・技術を学ぶ）を再確認し、学んだ内容を整理しました。

次に、自分たちに今後できそうな家庭教育や子育てを支援する取組を考えるための協議の進め方を確認しました。また、受講者一人一人が、研修での学びと共に、日常生活で感じる現在の子育て家庭の課題、その解決に向けた思いなども整理した上で協議に臨むことや、実現可能性の高い取組となるように工夫することなどの協議のポイントが示されました。

受講者は、会場ごとに家庭教育や子育ての現状と課題を共有し、それらの解決を目指すためにどんな取組ができそうか、意見を出し合いながら取組案を作成しました。どのグループも取組のねらいや主な内容、期待される効果など、発表する案の概要を固めることを目標として協議を進めました。協議は、個人用とグループ用の2種類のワークシートを活用して行いました。一人一人が自分の考えを個人用ワークシートに整理してから協議に臨んだことで、より焦点が絞られた話合いとなりました。

今回は、案の細部についてさらに協議を進め、グループごとにまとめた内容を発表する予定です。どんな発表となるか、今から楽しみです。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・母親として自分がしっかりしなくてはという思いにしばられてしまう気持ちが私にもよく分かるのですが、子どもにとっては様々な大人との関わりが成長につながるということを伝え、頼る大切さを多くの親たちに知ってほしいと思いました。
- ・新しい考え方や不登校の子どもとのアタッチメントについて知ることができたので、アウトリーチの際に実践していきたいです。また、1日1回の10分遊びは自分が親になった際に行いたいと感じました。
- ・「親のできない事を許す、支える」そのような手伝いとなる活動をしたと思いました。「非認知能力」へつながる、気軽に頼れる存在になりたいと強く感じました。
- ・オピニオンリーダーの活動は多くの役割をこなしており、現代で子育てをする親にとって貴重な存在であることが分かりました。
- ・他の人がどのような内容に課題感を感じているのか、新しい視点を知ることができました。
- ・いろいろな新しいアイデアを具体的にまとめ、実際に活動していきたいです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp